

# 温かくアットホームな職場

松永 あかね 国税専門官 | 2016年採用  
Matsunaga Akane 佐賀税務署 個人課税部門

## Question 1 現在の仕事内容について教えてください

私は所属する個人課税部門において調査事務、申告相談事務に従事します。調査事務では、実際に納税者の方の自宅や事業所に赴き事業内容等を聴取し、帳簿や契約書などを確認します。家族状況やお金の使い道など立ち入った話を聞くので、調査の初日はお互いに構えてしまうため緊張します。

2月から3月の確定申告期には個人課税部門全員で申告相談事務に従事します。この時期は、納税者の方が税務署に最も関心を持つ時期です。多くの納税者の方の申告相談を受けつつ、帳簿の記載方法や税制改正についても丁寧に説明します。そのため、大変ではありますが、その分確定申告期が終わったときには大きな達成感を得られます。



## Question 2 職場の雰囲気はどうですか

税務署は、気さくな上司と優しい先輩に囲まれた明るい職場です。新人の頃は分からないことだらけでしたが、いつも職場の誰かが気付き、声を掛けてくださりました。女性が少ない職場だと思われがちですが、女性職員も4割程度採用されており、女性特有の悩みも相談できます。また、1年目は慣れない土地での一人暮らしも始まり不安でしたが、周りの先輩や地元に残りのアルバイトさんが話を聞いてくださり、社会人としてスタートを切れました。

調査事務は、「お金」に関わることで納税者の方から厳しいことを言われることもあります。しかし、税務署に帰れば理解してくれる同僚がたくさんいて、とてもアットホームな職場だと感じます。



## Question 3 仕事のやりがいや達成感を感じたことを教えてください

私がやりがいを感じるのは、ひとつの調査が無事に終了したときです。まだ自身が未熟なため、納税者の方に調査結果を説明してもすぐに納得を得られないこともあります。しかし、一つ一つ法令の趣旨や適用のポイントを説明することで納得していただき、調査を終えることができました。

納税者の方の「お金」について調べるため、調査の現場では緊張感がありますし、若手の私は、ベテラン職員に比べ何倍もの日数がかかってしまうこともあります。しかし、調査が終了したときには、その分大きな達成感を感じました。



## メッセージ

Message



国税の職場は、コミュニケーション能力のほかに、税についての専門的な知識が必要となります。私は、大学の説明会で初めて税務署という機関を知りました。そのため、税の専門的な知識は全くありませんでした。そんな私が今仕事を続けられているのは、充実した研修制度と、税法に基づいて丁寧に指導してくださった職場の方々のおかげです。そのため、税務の分野に詳しくなくても気にすることはありません。

皆さんは、就職先について悩まれると思いますが、国税の職場は自分を成長させることができる素晴らしい職場です。皆さんと一緒に働けるのを楽しみにしています。